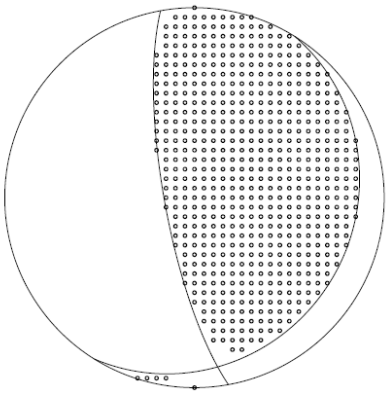
４月 17 日　エクアドル沿岸の地震
（W-phase を用いたメカニズム解析）

W-phase による解

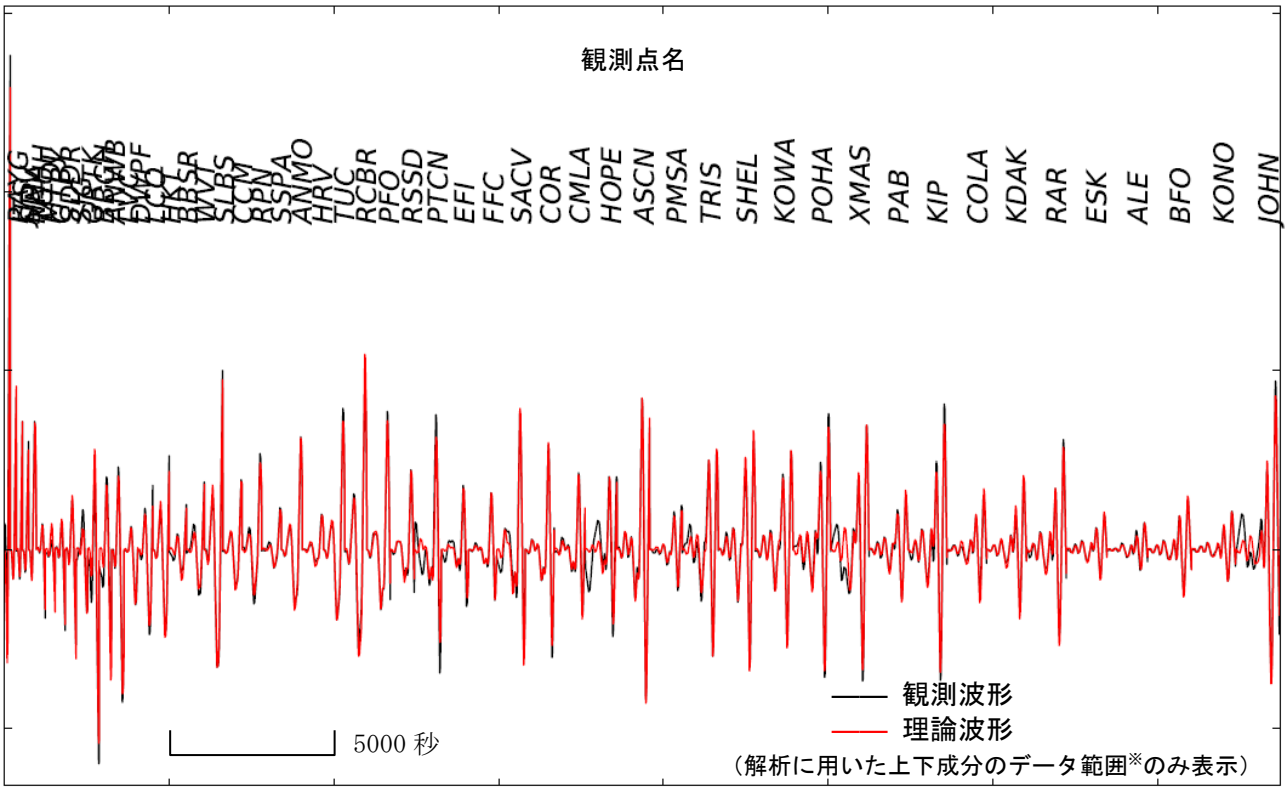


2016 年４月 17 日 08 時 58 分（日本時間）にエクアドル沿岸で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mw とも、Global CMT などの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 7.8 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は N0.2°、W80.1°、深さ 26km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10°～90° までの 52 観測点の上下成分、44 観測点の水平成分を用い、200～600 秒のフィルターを使用した。

注）W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M_0	断層面解１（走向／傾斜／すべり角）	断層面解２（走向／傾斜／すべり角）
7.8	7.39×10^{20}Nm	31.9°／17.0°／130.9°	169.7°／77.2°／78.6°



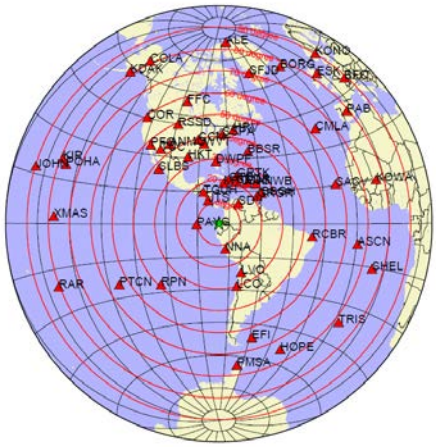
※解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離（度）としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

（W-phase に関する参考文献）

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成